

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 岡 部 敦

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
1. 人文社会系社会科学分野教育学	1) 教育政策
	2) 学校教育
	3) 学校経営

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1) 基礎演習Ⅰの学生教育指導	平成24年4月～ 現在	論理的な文章を書くための基礎力を養成することを目的とし、指定したテキスト『日本語作文術』に基づきテキストの要約およびレジュメの作成を中心とした課題を与え、ディスカッションを中心とした授業を展開している。同時に、社会学部一年次生のホームルームとしての役割を果たすため、個別面談などを通じて、学生の生活指導および就学指導を行っている。特に、大学外での人間関係（家族、友人など）に関わる課題についてカウンセリング的な機能を果たしている。
2) 社会人基礎Ⅴの学生教育指導	平成24年9月～ 平成26年1月	ことばによる問題解決能力を高める目的で、グループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート等が学生主体の活動を中心とした授業展開を構築した。特に、プレゼンテーションおよびディベートについては、授業内でコンペティション形式のイベントを企画し、学部内の他教員の協力のもと、学生のモチベーションをあげるための工夫を図った。
3) 教員免許更新講習必修第3領域	平成24年7月～ 現在	北海道教育大学札幌校の非常勤講師として教員免許更新講習の必修第3領域の講師を年間4コマ程度担当した。近年の教育政策の動向について、その概要を解説すると同時に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、養護学校などの多様な背景を持つ教員間で、教育実践や普段の教育活動における課題を共有してもらえるようなグループディスカッションの時間を取り入れた。
4) 生徒進路指導論の学生教育指導	平成24年9月～ 現在	特に進路指導分野にかかわる具体的な課題を学生に提示し、グループワークを通して、解決策を検討し、発表させる形式の授業を多く取り入れた。また、カウンセリングの理論及び実践に対する理解を深めるために、経験豊富なカウンセラーからの聞き取りをおこなったり、具体的な課題を与えて、どのようなアドバイスが考えられるかについて議論する機会を持った。
5) 基礎演習Ⅱの学生教育指導	平成25年4月～ 現在	抽象的な概念について書かれている文章を読解するにあたって、できるだけ具体的な事例に当てはめながら説明するように求めた。特に、文章の内容をあきらめることがないように、学生の理解度を確認しながら授業を進めるように留意した。また、次年度からの専門演習に移行するための準備として、社会学のどの分野に興味関心を持っているのかを探求する活動を取り入れた。
6) 企業との連携によるアクティブラーニングを取り入れた授業（社会人基礎Ⅴ）	平成26年9月～ 現在	フィールドワークの方法と調査によって得られた情報を他者に提示するための手法を学ぶことを目的とした学生主体の課題解決学習を取り入れた。具体的には、北海道中小企業家同友会との連携により、本学周辺の中小企業10社について、従業員の立場か、社会的な意義の2つの視点から、どのような魅力があるのかについて調査・発表する内容である。

事 項	年月日	概 要
<p>2 作成した教科書, 教材</p> <p>『15歳からの大学入門 わかる経営学』日本経済評論社 『15歳からの大学入門 美しい経済学』日本経済評論社 『15歳からの大学入門 守る企業法学』日本経済評論社</p>	<p>平成17年3月 平成17年3月 平成17年3月</p>	<p>高校生向けの経営学入門書の作成にあたって、高校生へのモニタリング調査等での協力にあたった。具体的には、放課後の時間に、模擬講義を開講し、参加した生徒にアンケート調査を実施し、講義の理解度を確認するという作業を行い、出版直前の原稿を、高校生の視点から読んで確認するという作業を通じて教材作成に協力した。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 鹿追町の国際交流事業へ通訳として参加</p> <p>2) 英語教育者ワークショップ発表</p> <p>3) 中学校英語教員研修会講師</p> <p>4) 交換留学生引率</p> <p>5) 文部省の外国教育施設日本語指導教員派遣事業 (REX計画) に参加</p>	<p>平成2年度～平成10年度</p> <p>平成3年8月</p> <p>平成4年10月</p> <p>平成8年1月</p> <p>平成8年4月～平成10年3月</p>	<p>鹿追町とカナダ・アルバータ州の姉妹都市ストーンブレイン町との国際交流に通訳および訪問団の引率者として参加した。主な業務内容としては、平成3年12月、鹿追町内の中高生15名に引率教員2名で構成される姉妹都市交流訪問団に通訳として同行し、現地までの移動および現地での受け入れ先との連絡等にあたった</p> <p>また、鹿追町に交際交流訪問団が訪れた際には、通訳として全ての行事に参加した。平成3年度に、姉妹都市のストーンブレイン町から、外国語指導助手を招聘する際には、町教育委員会と協力し、講師の選定および受け入れにかかわる業務を担当した。</p> <p>主催：環太平洋地域交流センター 後援：州立ハワイ大学マノア校 会場：ハワイ大学マノア校 演題：日本の英語教育の実態について 内容：日本の高校における英語教育の目的とその内容について紹介した。対象は、ワークショップに参加した韓国、日本を中心とする中・高校および大学の英語教員約200名にハワイ大学第二言語習得法の研究者</p> <p>主催：十勝教職員研修センター 会場：十勝教職員研修センター 演題「国際理解」 内容：十勝管内の中学校英語教員を対象として、国際理解教育に関する講演を実施。講演は全て英語で行った。内容は、鹿追町における姉妹都市交流の実践の紹介と、カナダと日本の教育システムの違いについて解説した。</p> <p>北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業で生徒引率 主催：北海道教育委員会 内容：北海道から交換留学生として派遣された10名の高校生がアルバータ州カルガリー市から、札幌に帰国する際に引率者として同行した。カルガリー市では、北海道を代表してホストファミリーおよびアルバータ州政府関係者にスピーチを行った。</p> <p>東京外国語大学留学生日本語センターにて3ヶ月の研修の後、カナダ・アルバータ州メディスンハット高校で2年間日本語を教える。メディスンハット高校では、日本9、15、25、35の4つのレベルの授業を単独で受け持った。学校内での日本語指導の他に、地元の多文化交流センター (Multicultural Folk Arts Centre) で、大人を対象とした日本語教室も開講した。</p>

事 項	年月日	概 要
6) 交換留学促進事業事前研修会 講師	平成10年10月	北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業事前研修会 主催：北海道教育委員会 会場北海道庁別館 演題：「ホームステイの受け入れとアルバータへの留学について」 内容：北海道とアルバータ州の姉妹都市交流事業の一環として実施している高校生の交換留学事業で、アルバータ州に渡航する高校生およびその保護者を対象としたセミナーの講師として、カナダでの生活にかかわる注意事項と留学の意味について説明した。
7) 交換留学促進事業事前研修会 講師	平成11年10月	北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業事前研修会 主催：北海道教育委員会 会場北海道庁別館 演題：「ホームステイの受け入れとアルバータへの留学について」 内容：北海道とアルバータ州の姉妹都市交流事業の一環として実施している高校生の交換留学事業で、アルバータ州に渡航する高校生およびその保護者を対象としたセミナーの講師として、カナダでの生活にかかわる注意事項と留学の意味について説明した。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許 1 教員免許状 2 教員免許状 3 TEFL Certificate	平成2年3月 平成2年3月 平成5年8月	高等学校教諭一種免許状 (商業) 高等学校教諭一種免許状 (外国語 (英語)) 米国サンディエゴ州立大学にて修了 外国語としての英語指導法 (Teaching English as a Foreign Lanuage) にかかわる様々なメソッドおよび言語習得における理論についてワークショップ形式の授業を受講し、修了証を授与された。
4 教員免許状	平成13年7月	高等学校教諭専修免許状 (商業)
5 教員免許状	平成13年7月	高等学校教諭専修免許状 (外国語 (英語))
6 日本キャリア教育学会認定キャリアカウンセラー	平成23年11月	日本キャリア教育学会の定める規定に準じて、養成講習を受講し、これまでの教育現場でのカウンセリング経験および研究活動に関する審査を経て、口述試験および実技試験に合格したため授与されるに至った。
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 高大連携に関わる活動 ①第1回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成15年12月	企画・運営・講演を担当 講演「手稲高校における高大連携事業の実態について」 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：小樽商科大学、 内容：高校から大学への接続教育カリキュラムの作成を目的として、小樽商科大学のキャリア教育担当教員数名と本校の教員数名が意見交換の場を定期的に設けることを提案するとともに、高校における学びの意味の喪失の課題について、その実態をふまえて報告した。

事 項	年月日	概 要
②第2回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成16年2月	企画・運営を担当 小樽商大教官による手稲高校の授業参観（地歴公民・数学・英語） 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：北海道札幌手稲高校 内容：大学の教員に高校の授業の実態を理解してもらうために実施した。特に、地歴公民科の教員との意見交換を通じて、接続カリキュラムの可能性について議論する場面を設けた。
③第3回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成16年3月	企画・運営を担当 討議：手稲高校単位制・学校設定科目における連携の可能性について 対象：小樽商科大学・北海道札幌手稲高校教員 会場：北海道札幌手稲高校 内容：単位制における学校設定科目に大学への接続を意図した科目を設置することに関して、その内容および目的について議論する場面を設定した。話し合いの内容として、ディベートやディスカッションなどを中心とした授業の組み立てが必要である事が確認された。
④第4回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成16年6月	企画・運営を担当 札幌手稲高校教員による小樽商科大学の初年次教育の授業参観への参加 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：小樽商科大学 内容：高校教員による大学の授業の見学を行い、大学の初年時の授業内容に接続する高校教育のあり方について議論した。
⑤小樽商科大学連続模擬講義	平成16年9月	企画・主催を担当 経営学・企業法学・経済学それぞれ2回 対象：北海道札幌手稲高校生徒 会場：北海道札幌手稲高校 内容：放課後および土曜日の時間帯を利用した模擬講義を企画し、実施にあたって中心的な取り組みを行った。
⑥高校生向け経営学・企業法学・経済学の入門書作成	平成16年11月	作成協力を担当 小樽商科大学教官作成のテキストに対する本校生徒のモニタリングの実施
⑦第5回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成17年3月	企画・運営を担当 討議：接続カリキュラム開発の可能性について 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：北海道札幌手稲高校 内容：単位制カリキュラムのうち、学校設定科目として開講する公民系のゼミナール政治経済の運営に関して、カリキュラム開発および指導方法についての小樽商科大学との連携、協力体制の確認を行った。
⑧小樽商科大学夏期連続模擬講義	平成17年7月	企画・主催・運営を担当 5日間の問題解決型ワークショップ実施 対象：北海道札幌手稲高校生徒 会場：北海道札幌手稲高校 内容：夏休み期間中を利用した、生徒主体による課題解決型学習を中心とした、連続型セミナーの企画運営を担当した。
⑨第6回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成18年3月	企画・運営・提言発表を担当 提言発表：高校から大学へのスムーズな接続を目指して 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：小樽商科大学 内容：これまでの小樽商大との連携、協力関係の経緯を確認し、今後の協力体制の在り方について検討した。

事 項	年月日	概 要
⑩第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成19年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を14の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：小樽商科大学、札幌医科大学、北海道大学CoSTEP、北海道教育大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑪第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成20年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を14の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：小樽商科大学、札幌医科大学、北海道大学CoSTEP、北海道教育大学、北星学園大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑫第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』の反省	平成20年3月	対象：札幌手稲高校教員および北大CoSTEP関係者 会場：北海道大学 内容：平成19年度の『学び体験ゼミ』の実施について、協力団体の一つであるCoSTEPと取り組みの内容および運営方法について振り返り、今後の在り方について検討した。
⑬第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成21年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を14の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：小樽商科大学、北海道大学（保健医療学部、理学部、歯学部）、北星学園大学、札幌学院大学、北海道教育大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑭第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成22年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を16の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：小樽商科大学、北海道大学、天使大学、北星学園大学、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道工業大学、札幌市立大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑮第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成23年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を16の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：北海道大学、天使大学、北星学園大学、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道工業大学、札幌市立大学、北海学園大学、東海大学札幌校、藤女子大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑯第7回小樽商科大学・札幌手稲高校高大連携セミナー	平成23年3月	企画・運営・提言発表を担当 提言発表：持続可能な高大連携事業のあり方について 対象：小樽商科大学・札幌手稲高校教員 会場：札幌手稲高校 内容：これまでの小樽商大との連携事業における課題点を確認し、持続可能な高大連携のあり方について検討した。特に、普通科目における大学への接続を意図した授業内容・授業方法の構築およびキャリア教育における高大接続の可能性について議論した。

事 項	年月日	概 要
⑰第2年次総合的な学習『学び体験ゼミ』	平成24年1月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を16の開講ゼミの中から希望するものを選び、問題解決型のゼミ活動を主体とした4回連続シリーズの高大接続を意図した学習 協力機関：北海道大学、天使大学、北星学園大学、札幌学院大学、酪農学園大学、北海道工業大学、札幌市立大学、北海学園大学、東海大学札幌校、藤女子大学 会場：北海道札幌手稲高校
⑱高校生のための社会学入門	平成25年1月 ～平成26年4月	企画運営を担当 札幌大谷大学社会学部と高等学校の接続を図るための企画として、5回の講座を開催した。特定のテーマについて、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、主体的に課題を解決する経験とテーマに関する理解を深めることを目的として行った。また、本企画の中で、本学学生と高校生が一緒に同じ課題について取り組むことで、大学生と高校生の双方にとって学習の機会となることを意図した。
2) インターンシップに関わる活動		
①第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成18年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別10のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした質問応答型の学習活動、運営にあたっては札幌商工会議所との協力関係を構築した。 会場：北海道札幌手稲高校
②第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成18年7月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として60程度の事業所を確保した。 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関
③第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成19年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別10のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした質問応答型の学習活動、運営にあたっては札幌商工会議所との協力関係を構築した。 会場：北海道札幌手稲高校
④第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成19年7月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として60程度の事業所を確保した。 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関
⑤第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成20年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別10のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした質問応答型の学習活動、運営にあたっては札幌商工会議所との協力関係を構築した。 会場：北海道札幌手稲高校
⑥第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成20年7月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として60程度の事業所を確保した。新たに、北海道建築士事務所協会札幌支部および北海道国際航空株式会社（Air DO）との協力関係を構築 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関

事 項	年月日	概 要
⑦第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成21年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別10のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした質問応答型の学習活動を実施した。 会場：北海道札幌手稲高校
⑧第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成21年7月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として70程度の事業所を確保した。 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関
⑨第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成22年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別11のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした質問応答型の学習活動を実施した。 会場：北海道札幌手稲高校
⑩第1年次総合的な学習『職業人に聞こう』	平成22年3月	プロジェクトの企画・運営を担当 1年次生徒320名を職業別12のゼミの中から希望するものを選び、若手職業人を講師とした講演および課題解決型のワークショップを実施した。 会場：北海道札幌手稲高校
⑪第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成22年7月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として72程度の事業所を確保した。 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関
⑫第2年次総合的な学習『インターンシップ』	平成23年6月	企画・運営を担当 2年次生徒320名を、希望する職種に関連する企業、行政機関、病院、学校に派遣する体験型学習、生徒の受け入れ先として69程度の事業所を確保した。 会場：札幌市内および周辺地区の企業および行政機関
3) 社会的な活動		
①北海道高等学校文化連盟国際交流専門部主催 全道英語ディベート大会審査員	平成24年11月～平成27年11月	北海道内の高等学校約20校から250人の高校生が参加した北海道高校生英語ディベート大会の審査員を勤めた。
②北海道高等学校文化連盟国際交流専門部主催 北海道高校生英語弁論大会石狩地区大会審査員および審査員長	平成26年11月～平成27年11月	石狩地区の高等学校から約25名の高校生が参加した英語弁論大会の審査員を努める。平成27年度は審査員長となる。
③北海道キャリア教育・職業教育フォーラムおよび東京セミナー	平成25年11月～平成27年11月	北海道内の小・中・高等学校においてキャリア教育を担当する教員を対象に、キャリア教育および職業教育の理論と実践を考えるというテーマで毎年1回研究会を開催した。ゲストスピーカーとして、カナダ・アルバータ州のアルバータ大学のキャリア教育研究者、州教育省カリキュラム開発担当者、エドモントン市内の公立高校でキャリア教育を担当する教員を招聘し、地元の高教員やキャリア支援企業担当者などとシンポジウムを開催し、自らコーディネーターを努めた。また、実施にあたっては、科研費の他、協賛企業を募り資金援助を受けた。さらに、平成25年度は、東京のカナダ大使館を会場として、都内のキャリア教育関係者を対象に小規模な研究会も開催した。
④北海道高等学校文化連盟国際交流専門部主催 全道高校生英語プレゼンテーション大会審査委員長	平成26年5月	北海道内の高等学校約20校から200人の高校生が参加した北海道高校生英語プレゼンテーション大会の審査委員長を勤めた。

事 項	年月日	概 要
⑤北海道キャリア教育研究会設立	平成26年9月	北海道内の中学校教員、高等学校教員、専門学校教員、研究者など30名で、北海道のキャリア教育推進に関わる調査・研究を活動内容とする研究会を設立した。主な活動内容は、年間2回の学習会と北海道キャリア教育・職業教育フォーラムを開催することに加え、年1回の研究紀要発行である。
⑥美術学科特別講義 Royden Mills スライドショー	平成26年7月	1991年から通訳として関わっている鹿追町とカナダ・アルバータ州ストーンプレイン町との姉妹都市交流に共に関わってきたRoyden Mills氏（アルバータ大学講師）を勤務校に招き、美術学科の学生を対象にしたスライドショーを企画・運営し、講師の解説を通訳として支援した。教員、学生など約50名が集まった。主な内容は、作品の背景にあるコンセプトと講師の日本での経験とのつながりについての検討であった。
⑦地域メディアシンポジウム	平成26年7月	社会学部の一分野であるメディア社会学について、大学関係者および地域住民に知ってもらうことを目的として、地元テレビ局のアナウンサー、コミュニティーFMラジオ局代表者、美術学科教員、地域社会学科教員をパネリストにしたシンポジウムの実行委員長として企画・運営を行った。
⑧日本キャリア教育学会IAEVG国際 キャリア教育学会開催準備委員	平成26年8月	平成27年9月18日から21日の日程でつくば国際会議場で開催される国際キャリア教育学会（IAEVG）主催の研究大会の準備委員として任命された。
⑨北海道キャリア教育研究会設立	平成26年9月	北海道内の中学校教員、高等学校教員、専門学校教員、研究者など30名で、北海道のキャリア教育推進に関わる調査・研究を活動内容とする研究会を設立した。主な活動内容は、年間2回の学習会と北海道キャリア教育・職業教育フォーラムを開催することに加え、年1回の研究紀要発行である。
⑩北海道高等学校文化連盟国際交 流専門部主催 全道高校生英語 プレゼンテーション大会審査委 員	平成27年5月	北海道内の高等学校約20校から200人の高校生が参加した北海道高校生英語プレゼンテーション大会の審査委員を勤めた。
⑪美唄サテライト・キャンパス 2015・2016講師	平成27年5月 平成28年6月	美唄市の生涯学習プログラム「美唄サテライト・キャンパス」に「ディベートに挑戦してみよう」というテーマの講座を開講し、講師として3回の講座を担当した（2016年度は4回）。主催：美唄市教育委員会
⑫北海道高等学校文化連盟国際交 流専門部主催 全道高校生英語 プレゼンテーション大会審査委 員	平成28年5月	北海道内の高等学校約20校から200人の高校生が参加した北海道高校生英語プレゼンテーション大会の審査委員を勤めた。
⑬北海道高等学校文化連盟国際交 流専門部石狩支部主催 全道高 校生英語弁論大会石狩大会審査 委員長	平成28年10月	北海道石狩管内の高等学校から23名の高校生が参加した英語弁論大会において、審査委員長として参加した。
⑭日本キャリア教育学会第39回研 究大会兼北海道キャリア教育職 業教育フォーラム2016の企画・運 営	平成28年10月	「キャリア教育を問い直す」というテーマで、日本キャリア教育学会の研究大会を、大会実行委員会事務局長という立場で、北海道キャリア教育研究会主催の北海道キャリア教育・職業教育フォーラムとの共催という形式をとり企画・運営した。実行委員会企画のシンポジウムでは、地元札幌のボランティア・企業・高校で活躍する人材に加えて、韓国およびカナダからゲストを招き、社会的包摂を目指すキャリア教育の取り組みについて国際比較を行なった。また、学会として初めて英語発表の分科会を設け、国際化に貢献した。

事 項	年月日	概 要
⑮北海道キャリア教育フォーラム 2018兼日本キャリア教育学会北海道東北地区部会研究会の企画運営	平成30年9月	「少年院を出院した子どもたちの自立支援」というテーマで、北海道キャリア教育研究会主催のフォーラムを、日本キャリア教育学会北海道東北地区部会と共催で開催した。基調講演者に、カナダ・アルバータ州カルガリー市教育委員会の Youth Attendance Centre 所属の教員を招き、カナダの少年犯罪および少年院の状況について紹介し、少年犯罪を犯したことにより、社会的に排除される可能性のある若者への支援のあり方について検討した。合わせて、韓国青少年研究員から研究者を招き、韓国の少年院の現状と課題について、さらに千歳市の紫明女子学院の院長を招いて、日本の少年院の現状と課題について報告し、その後、シンポジウムを行った。
⑯全国商業高等学校連合会北海道支部英語弁論大会審査委員長	2019年10月	北見商業高校が当番校となり北海道内の商業高校に在籍する30名の高校生が会場（札幌大谷大学）に集まり、英語弁論の部と英語暗唱の部に別れてコンテストを行い、その審査委員長として、高校の教員から選出された審査委員とともに、出場者の評価を行った。
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 21世紀にはばたく カナダの教育	共著	平成15年9月	東信堂 315頁 (編著者) 小林順子, 関口礼子, 浪田克之介, 小川洋, 溝上智恵子 (共著者) 岡部敦, 栗原和子, 平田淳, 成島美弥, 坂本光代, 成島隆, 品田実花, 風間香織, 浪田陽子, 小玉奈々, 時田朋子, 広瀬健一郎, 下村智子, 宮本健太郎, 水畑順作	(担当部分概要) 第2章「卓越性を求めるアルバータの教育」(pp.45-54) 90年代の職業教育プログラムの改訂と、企業からの教育に対する提言をふまえた高校教育改革の流れについて考察した。 第2章「卓越性を求めるアルバータの教育」コラム (pp.59-62) アルバータ州の高校における意思決定の組織と手順について紹介した。特に、管理職の仕事と教員の校務にかかわる委員会組織などを中心に取り上げた。 第4章「ITと教育」(pp.197-203) IT教育が全ての教科科目での学習活動に取り入れられている実践を取り上げて紹介した。特に、高校のカリキュラムにおけるIT関連科目の内容を中心に取り上げた。
2. 教育行政学-子ども・若者の未来を拓く	共著	平成26年9月	八千代出版 pp. 101-111	教育行政学に関心のある一般市民や学生を対象に執筆した。分担部分は、全12章のうちの第6章の前半部分で、日本の公教育制度の歴史的経緯と現状に関わる解説部分である。具体的には、教育を受ける権利と公教育制度、学校の種類と設置者、学校間接続と受験競争についてである。 (共著者) 横井敏朗 (編著)、坪井由実、辻村貴洋、伊藤健治、横関理恵、篠原岳司、津田沙希子、渡辺篤志、栗野正紀、明田川知美、安宅仁人、市原純

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 3. 高等学校から職業社会への移行プログラムに関する研究—カナダ・アルバータ州の高校教育改革—	単著	2020年4月	風間書房	2011年に北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程に学位論文として提出したものに加筆・修正を加え出版した。普通教育と職業教育の二重性という高校教育の目的について検討を試みるものである。日本における高校教育をめぐる議論を踏まえて、カナダ・アルバータ州における学校から職業社会への移行(STW)プログラムの成立経緯およびそのカリキュラム上の概念について分析し、日本の高校教育改革の可能性について述べている。特に、職業教育の役割が高校教育カリキュラムの中でどのように変わってきたのか、またオフキャンパス教育と呼ばれる学校外での学修機会が、生徒の学びにどんな利点をもたらすのかについて事例をもとに取り上げた。
(学術論文) 1. 「小規模校に於ける英語教育の実践～ビデオを用いた O.C. の試み」 2. 学校から職業社会への移行 —カナダ・アルバータ州の高校教育改革— 3. カナダ・アルバータ州における高校教育改革School Career Transitions Initiativeの成立とそのカリキュラムに関する考察 4. 1990年代アルバータ州の高校教育改革に関する一考察—“Employability Skills Profile”の成立過程を中心に— (査読付)	単著 単著 単著 単著	平成6年3月 平成13年11月 平成14年3月 平成14年3月	北海道高等学校教育研究会研究紀要第31号、p. 83-91 日本教育制度学会第9回大会研究発表論文集(日本教育制度学会) pp. 36~47 北海道大学大学院教育学研究科研究紀要第85号 pp. 251~274 カナダ教育研究(カナダ教育研究会)第1号 pp. 56~71	授業における教材の提示および生徒の活動の発表にビデオを効果的に用いることを取り入れたオーラルコミュニケーションの実践について紹介した。 カナダ・アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムのうち、90年代に新たに開発されたCareer and Technology Studiesのカリキュラム上の特徴を示すとともに、高校教育プログラムに役割について検討した アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムの成立過程を明らかにし、そのうち、職業教育プログラムとオフキャンパス教育についてそのカリキュラム上の特徴を分析し、改革原理の普遍性について検討した。 90年代のアルバータ州における高校教育改革の理論的背景となった、Conference Board of Canadaが作成したEmployability Skills Profileの成立過程を明らかにするとともに、そのprofileが、学校現場にどのように浸透し、教育活動にどう取り入れられたのかについて考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 5. カナダ・アルバータ州の高校教育改革～テック・プレップ・コンソーシアムの事例を中心に	単著	平成14年6月	日本比較教育学会第38回大会発表要旨集録(日本比較教育学会) pp. 190～191	アルバータ州における学校から職業社会への移行に関わる高校教育改革の中で、地域的な取り組みとして盛り上がりを見せたテック・プレップ・コンソーシアムの成立過程と、そのプログラムの特徴を明らかにした。
6. 高校における『学校から職業社会への移行』関連プログラムの実態調査—カナダ・アルバータ州 Jasper Place High Schoolのアンケート分析結果報告—	単著	平成15年12月	公教育システム研究(北海道大学大学院教育学研究科公教育システム研究会) 第3号 pp. 127～148	アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムとして位置づく、CALM、CTS、オフキャンパス教育の3つのプログラムを、履修した生徒がどう評価しているのかを調査する目的で、州都エドモントン市のジャスパープレイス高校の第12学年生徒を対象としたアンケート調査を実施し、その結果を報告した。
7. 本校における高大連携事業:「高校から大学へのスムーズな接続を目指して」	単著	平成18年3月	教育実践と研究(北海道札幌手稲高等学校) 第7号 pp. 66-71	勤務校である北海道札幌手稲高等学校における高大連携の取り組みについて報告することを目的とした。手稲高校では、平成15年度から小樽商科大学と北海道工業大学との間で、高大の接続をふまえた教育実践を協同で行ってきた。本論文では、これらの実践に至る経緯と、現状における課題について述べた。
8. 札幌手稲高校の総合学習:普通高校におけるキャリア学習の実践	単著	平成21年3月	教育実践と研究(北海道札幌手稲高等学校) 第7号 pp. 66-71	普通高校におけるキャリア学習について、勤務校における実践を事例として取り上げ、勤労観・職業観の育成のみに陥ることなく、全ての生徒が意味を見いだすようなキャリア教育のあり方を検討した。
9. アルバータ州におけるCareer and Life Managementの研究—キャリア形成支援分野の事例を中心に—(査読付)	単著	平成21年5月	カナダ教育研究第7号 pp. 61-78	アルバータ州の高校卒業資格取得のための必修科目として1989年に導入された Career and Life Management の成立過程とその目的について分析し、特に、キャリア形成支援分野の学習内容に焦点を当て、このプログラムが、高校カリキュラムにおいてどのような位置づけとなっているのかについて考察した。
10. 世界の教室からカナダ編①「きめ細かなキャリア教育」	単著	平成21年4月	月刊ホームルーム、学事出版第34巻第4号、 pp. 28-29	アルバータ州におけるキャリア教育の一つとして、高校生向けのアプレンティスシップやインターンシップの取り組みについて紹介した。
11. 世界の教室からカナダ編②「コンポジット高校とは?」	単著	平成21年5月	月刊ホームルーム、学事出版第34巻第4号、 pp. 30-31	コンポジットと呼ばれる総合制の高校の形態について紹介し、その中で展開する多彩な開講科目について考察した。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 12. 世界の教室からカナダ編③「アルバータ州のエリート教育」	単著	平成21年6月	月刊ホームルーム、学事出版第34巻第4号、pp. 40-41	エリート教育として、アドバンス・プレイスメントや国際バカロレアについて紹介し、エリート教育の内容について焦点を当てた。
13. キャリア教育における高大連携	単著	平成22年5月	北海道地域総合研究第1号、社団法人北海道地域総合研究所、pp. 42-48	キャリア教育における高校と大学の連携および接続の在り方について検討した。特に、ガイダンス部長として勤務校で実践してきた事例を中心に上げ、今後の継続的な研究の必要性を指摘した。
14. インターンシップ教育に関する現状と課題—北海道札幌手稲高等学校の事例分析を中心として—	共著	平成23年4月	北海道自治研究 ((社)北海道地方自治研究所) 505号 pp. 2~9	(共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 2年生全員がインターンシップに参加する北海道札幌手稲高等学校の生徒を対象にしたインターンシップ・アンケート調査を実施して、調査結果を分析した。高等学校のインターンシップ教育では、個人の能力向上の点から必要性が認められた一方で、社会関係の維持の点からは評価が低いことを明らかにした。高大接続の視点から大学のインターンシップ教育は、社会関係の維持と組織への貢献を目標設定する重要性を指摘した。 (共著者) 平岡祥孝, 岡部敦
15. 高校におけるキャリア形成支援プログラムの研究—カナダ・アルバータ州の事例を中心に	単著	平成23年11月	日本キャリア教育学会第33回大会発表論文集 pp. 182-183	アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムのうち、必修科目として開発された Career and Life Management (CALM) に焦点をあて、そのカリキュラム上の特徴を考察し、高校教育におけるキャリア教育の可能性について検討した。
16. 学校から職業社会への移行プログラムの研究—札幌市内A高校のキャリア教育における実践と課題	単著	平成24年11月	日本キャリア教育学会第34回大会発表論文集 pp. 130-131 (科学研究補助費課題研究番号 24830069 の成果発表)	学校教育法 50 条に規定される高校教育の目的と現状とのギャップについて着目し、高校生の 70% の在籍率を占める普通科高校でのキャリア教育の意味について検討した。また、特定の高校における具体的な実践事例を取り上げ、その効果を検証するとともに、実践上の課題を分析した。
17. 高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する研究—アメリカにおける学校から職業社会への移行改革を中心に—	単著	平成25年3月	札幌大谷大学社会学部論集 pp. 1-17 (科学研究補助費課題研究番号 24830069 の成果発表)	1990年代にアメリカにおいて成立した School-to-Work Opportunity Act の成立過程を分析し、その理論的な枠組みを検討した。特に、文脈学習 (Contextual Learning) の概念を中心とした高校教育プログラムの内容を挙げた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 18. 高校教育における普通教育と職業教育の統合に関する研究	単著	平成25年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第43号 pp, 83-92 (科学研究補助費課題研究番号 24830069 の成果発表)	高校教育の目的である「普通教育」と「職業教育」の二重性について検討し、それらを実現する教育とは何かについて議論を深めた。戦後の新制高校成立時の基本原則の一つである総合制から、今日の高校教育システムが構築されるまでの経緯を制度面および背景となる社会的な状況の視点から分析し、現状における課題を提示した。
19. 高等学校における職業教育およびキャリア教育の在り方に関する研究	単著	平成26年6月	科学研究費助成事業研究成果報告書 (科学研究補助費課題研究番号 24830069 の成果発表)	日本の高校教育におけるキャリア教育・職業教育をカナダ・アルバータ州の高校教育システムと比較し、高校教育のあり方について検討することを目的とした研究の報告書である。特に、キャリア教育・職業教育がスキルの習得という目的を超えて、学習の意味づけをする役割を持つ可能性について議論し、理論と実践の統合の重要性を指摘した。
20. カナダの高校教育における職業教育の動向	単著	平成26年9月	教育制度学研究第21号 pp. 256-261	少子化・高齢化という先進国共通の課題をもつカナダの諸州において、トレード分野におけるスキルを持った労働者の不足という課題に直面し、その対策として、若者が高校に在学しながら職能資格取得のためのアプレンティスシップ(徒弟)プログラムの一部を履修することを可能とした取り組みについて取り上げた。
21. 高等学校におけるアプレンティスシップの可能性について-カナダ・アルバータ州の事例	単著	平成27年11月	日本キャリア教育学会第36回大会発表論文集 pp. 97-98	具体的な職能資格を取得するためのアプレンティスシップ(徒弟)プログラムの一部を高校カリキュラムの一部とした取り組みについて、その成立過程と内容的な特徴を紹介した。その上で、職業を通じた学習が理論的な学習の具体的な意味を認識する場となっている点、進学か就職といった二者択一の選択ではなく、相互乗り換え可能な複線型の可能性について検討した。
22. 高校教育における職業教育の可能性について	単著	平成28年3月	日本進路指導協会「進路指導」第89巻第1号	後期中等教育における中退リスクを抱える生徒に対する対応として、職業教育の持つ可能性について分析した。事例として、カナダ・アルバータ州のカルガリー市を中心とした取り組みを取り上げ、特に学校外における学習機会の拡大が、困難を抱える若者にしっかりとした大人とのコミュニケーションの場を与える役割を果たすことになり、さらには高校教育の意味を認識し、学習へのモチベーションを得ていることが明らかとなった。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 23. 社会的包摂を目指す高等学校教育の可能性：カルガリー市の実践を中心に	単著	平成29年3月	北海道キャリア教育研究会『北海道キャリア教育研究』第1号 pp. 1-12	貧困、移民、学習障害などの困難を抱え、高等学校の卒業資格を有することができないまま退学してしまう可能性のある若者に対して、カルガリー市教育委員会がどのような取り組みを行なっているのか、3年間にわたる現地調査で得られたデータを元に、具体的な取り組みの事例を紹介した。
24. 高校カリキュラム改革と高校中退問題：アルバータ州の高校再構築(High School Redesign)政策	単著	平成30年3月	北海道キャリア教育研究会『北海道キャリア教育研究』第2号 pp. 2-11	高校中退問題への教育行政の取り組みの事例として、カナダ・アルバータ州教育省が2012年から導入した「高校再構築(High School Redesign)」政策の概要について紹介し、全ての生徒が高校教育の意味について認識できるようなカリキュラムおよび単位認定の仕組みについて検討した。
25. カナダ・アルバータ州における高校中退予防のための教育政策	単著	2019年7月	『日本教育政策学会年報』第26号 pp. 155-162、	アルバータ州教育省の中退予防政策として、High School Redesignのうち、カーネギーユニットの廃止と、マスターラーニングの概念について取り上げ、その具体的な事例を紹介した。
26. Preventing At-Risk Youth Becoming NEET: Effective High-School Work-Integrated-Learning Policies and Programs in Canada	共著	2020年3月	Career Guidance for Inclusive Society Conference Proceedings, International Association for Educational and Vocational Guidance (IAEVG), pp.157-167	高校教育における職業教育及びオフキャンパス教育が、ニートや高校中退の可能性を持つ若者にとってどのような効果を持つのか、また学校において実際にどのような役割を果たしているのかについて、カナダのアルバータ州とオンタリオ州の比較を行い、有効な改革原理について取り上げ議論した。 共著者： Lorraine Godden, Associate Professor at Carlton University

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (翻訳) 1. 『学校と職場をつなぐキャリア教育改革—アメリカにおけるSchool-to-Work運動の挑戦—』</p> <p>(William J. Stull & Nicholas M. Sanders(2003), The School-to-Work Moverment: Origins and Destination)</p>	共著	平成23年7月	学事出版 (385 ページ)	<p>担当部分概要 第1章後半(pp. 16-29) 1990年代を通じて展開したアメリカにおけるSchool-to-Work運動の成果とその後の衰退へ至る経緯について概要を示した。 第13章(pp. 249-268) アメリカにおける「全ての者に大学を(College for All)」政策の経緯と背景を分析し、その問題点について指摘している。 第14章(pp. 271-295) 1992年に成立したSTW機会法とその実行過程における課題を明らかにし、今後のSTW運動の在り方について検討している。 (共訳者) 横井敏郎(編者)、明田川知美、安宅仁人、小出達夫、酒井貞彦、佐藤浩章、篠原岳司、西美江、安武邦子</p>
<p>(口頭発表) 1. 「本校英語科教育の現状と今後の課題～魅力ある授業への挑戦」</p> <p>2. 「Oral Communication Aの授業形態を目指して」</p> <p>3. ビデオを用いた Oral Communication の授業形態をめざして</p> <p>4. オーラルコミュニケーション活性化のためのヒント</p> <p>5. コミュニケーション活動を取り入れた英語IIの指導法を考える」</p> <p>6. 人間としての在り方 生き方を考える見学旅行—広島平和公園と奈良・京都などの古都に学ぶ—」</p>	単	平成2年11月	<p>合同教育研究会全道集会発表 (会場: 北星学園新札幌高等学校)</p> <p>第34回全国高等学校視聴覚教育研究大会 (会場: 北海道帯広緑陽高等学校)</p> <p>第1回北海道英語教育フォーラム (会場: 会場JOY英語研究所(帯広))</p> <p>第3回北海道英語教育フォーラム (会場: JOY英語研究所(帯広))</p> <p>第42回北海道中学校・高等学校英語教育研究会 (会場: 北海道札幌手稲高等学校)</p> <p>平成11年度北海道修学旅行研究協議会発表 (会場: 道立社会総合センター『かでの2・7』)</p>	<p>生徒の英語学習に対する動機付けを重視しながら、英語を理解する能力をいかにして高めるかの実践を報告した。</p> <p>視聴覚機器を用いたコミュニケーション重視の英語教育の実践を紹介した。特に、ビデオを使ったスキットコンテストの取組を中心とした。</p> <p>ビデオを使ったスキット・コンテストの取組を中心として、郡部小規模校における英語教育の取り組みの困難さと、英語教育に対する興味を高めた生徒の変容を紹介</p> <p>コミュニケーション能力を高めるための授業実践例を紹介した。特に、生徒主体の発表活動を中心とした授業事例について</p> <p>教科書の題材について、日本語に訳することなく、概要を視聴覚機器(パワーポイント等)を使用して説明し、題材に関してグループ討議を実施し、その結果を発表させる授業を公開した。</p> <p>見学旅行に際して、生徒の主体的な取り組みによる事前学習を企画・運営する。例えば、見学地の一つである広島については、戦争に関する異なる視点からの検討というテーマで、外国人からみた日本の戦争という点で議論する場を与えた。</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 7. カナダ・アルバータ州の高校教育改革-School Career Transitions Initiative- (学校から職業社会への移行)	単	平成12年6月	第2回カナダ教育研究会 (日仏会館)	修士論文作成のために収集した資料をもとに、アルバータ州で進行する高校教育改革の実態を報告すると同時に、作成中の修士論文の構成を公表し、参加者に意見を求めた。
8. 学校から職業社会への移行"School Career Transitions Initiative"-カナダ・アルバータ州の高校教育改革-	単	平成13年6月	第6回カナダ教育研究会 (日仏会館)	修士論文の概要を報告し、カナダ・アルバータ州における学校から職業社会への移行に関わる取り組みを全般的に紹介した。
9. 学校から職業社会への移行-カナダ・アルバータ州の高校教育改革-	単	平成13年11月	第9回日本教育制度学会 (龍谷大学大宮学舎)	アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムの成立過程とその構成要素について紹介し、この改革の背景に存在する原理を提示し、この改革の普遍性について検討した。
10. 1990年代のカナダ・アルバータ州の高校教育改革-テック・ブレップ・コンソーシアムの事例を中心に-	単	平成14年6月	第38回日本比較教育学会 (九州大学教育学部)	アルバータ州における学校から職業社会への移行に関わる高校教育改革の中で、地域的な取り組みとして盛り上がりを見せたテック・ブレップ・コンソーシアムの成立過程と、そのプログラムの特徴を明らかにした。
11. 高校におけるキャリア関連プログラムの研究-カナダ・アルバータ州の事例を中心に-	単	平成15年11月	第11回日本教育制度学会 (鳴門教育大学)	アルバータ州の高校教育カリキュラムのうち、生徒のキャリア形成支援に関わる3つのプログラムの内容について紹介した。
12. カナダの高校職業教育 育改革の研究-アルバータ州における Career and Technology Studies の事例を中心に-	単	平成19年7月	日本教育政策学会 第14回大会 (北海道大学)	1990年代を通じて展開したアルバータ州における高校職業教育改革の経緯を明らかにすると共に、新たに開発された Career and Technology Studies (CTS) を構成する概念について分析し、従来の職業教育との違いについて検討した。
13. カナダ・アルバータ州におけるオフキャンパス教育の研究	単	平成21年11月	第17回日本教育制度学会 (常葉学園大学)	1990年代のアルバータ州における職業教育プログラムの開発に伴って発達したオフキャンパス教育の取り組みについて、3つのプログラムの趣旨と成立過程を明らかにした。特に、職場での学習と普通教育との関わりを重視したカリキュラム内容について取り上げた。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 14. キャリア教育の視点から見た高大連携の在り方について	単	平成22年11月	平成22年度北海道高大連携フォーラム (会場：北星学園大学)	勤務校である札幌手稲高校でのキャリア教育の実践を報告すると同時に、その実践のうち高大連携に関わるものを取り上げ、高校教育の中でどんな働きをしているのかを検討した。合わせて、高校と大学の接続の在り方について提言し、その後の討議に先立つ提言発表とした。
15. キャリア教育の視点から見た高大連携の在り方について	単	平成22年11月	平成22年度北海道高大連携フォーラム (会場：北星学園大学)	前勤務校である札幌手稲高校でのキャリア教育の実践を報告すると同時に、その実践のうち高大連携に関わるものを取り上げ、高校教育の中でどんな働きをしているのかを検討した。合わせて、高校と大学の接続の在り方について提言し、その後の討議に先立つ提言発表とした。
16. 学校から職業社会への移行プログラムの研究—アルバータ州の高校教育改革に関わる10年間の研究のまとめ—	単	平成23年6月	日本カナダ学会学術研究ユニット「カナダの学校教育と教員」第6回研究会、カナダ教育学会第37回研究会 (会場：東洋大学)	平成23年3月に発表した学位論文「学校から職業社会への移行プログラムの研究」の概要を報告し、これまでの10年間の研究活動を振り返るとともに、今後の研究活動に関わる示唆を得た。
17. 学校から職業社会への移行プログラムに関する研究—カナダ・アルバータ州の高校教育改革の事例を中心に—	単	平成23年6月	日本比較教育学会 (会場：早稲田大学)	カナダ・アルバータ州の学校から職業社会への移行プログラムの実践の分析を通じて、高校教育の目的の二重性(普通教育と職業教育)実現の可能性を検討した。
18. 高校におけるキャリア形成支援プログラムの研究—カナダ・アルバータ州の事例を中心に—	単	平成23年11月	日本キャリア教育学会第33回大会 (会場：日本体育大学)	アルバータ州における学校から職業社会への移行プログラムのうち、必修科目として開発された Career and Life Management (CALM) に焦点をあて、そのカリキュラム上の特徴を考察し、高校教育におけるキャリア教育の可能性について検討した。
19. キャリア教育から見た英語教育	単	平成24年1月	実用英語教育学会第1回大会 (会場：札幌大谷大学)	日本におけるキャリア教育導入に至る経緯とその教育的な意味について考察した。特に、高等学校におけるキャリア教育の位置づけを中心に議論した。また、英語教育におけるキャリア形成の側面について分析し、現在の英語教育における課題を提示し、その解決策について検討した。
20. 高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する研究—カナダとアメリカの比較を通して—	単	平成24年7月	日本教育政策学会第19回大会(会場：東京学芸大学)	1990年代のカナダ・アルバータ州における学校から職業社会への移行(School-to-Work)プログラムの成立過程と現状を分析し、同じ時期にアメリカにおいて成立した School-to-Work Opportunity Act との類似点と相違点を検討した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 21. 学校から職業社会への移行プログラム の研究—札幌市内A高校のキャリア教育における実践と課題—	単	平成24年10月	日本キャリア教育学会 第34回研究大会 (会場：滋賀大学) (科学研究補助費課題 研究番号24830069の成果発表)	学校教育法 50 条に規定される高校教育の目的と現状とのギャップについて着目し、高校生の 70%の在籍率を占める普通科高校でのキャリア教育の意味について検討した。また、特定の高校における具体的な実践事例を取り上げ、その効果を検証するとともに、実践上の課題を分析した。
22. Career-Related and Vocational Education in Japanese High Schools	単	平成25年3月	The Work and Learning Network Seminar Series 2013, University of Alberta, Canada (招待講演) (科学研究補助費課題 研究番号24830069の成果発表)	戦後の日本の高校教育の経緯と、その背景となる企業社会の動向との関わりについて説明し、キャリア教育および職業教育を推進する上で何が課題となっているのかについて検討した。また、これまでのアルバータ州の高校教育に関する研究成果の一部を報告し、日本の高校教育との比較を試み、高校教育の意味は何かという点について議論を深めた。
23. Career-related Education in Japanese High Schools (査読付き)	単	平成25年9月	2013 Career Guidance International Conference, International Association for Educational and Vocational Guidance (Montpellier, France)	日本の戦後の高校教育における進路指導、キャリア教育、職業教育の経緯について紹介し、高校での学習成果が一元的能力主義による偏った尺度で評価され、学習内容そのものが職業社会および中等後教育との接続という点において、積極的な意味を失っているという問題を提起した。
24. 学校から職業社会への移行～高等学校でのキャリア教育を考える～	単	平成25年10月	第35回北海道進路指導協議会十勝支部研究協議会(会場：帯広工業高等学校) (招待講演)	ゆとり教育政策から学力向上政策への転換に関わる教育政策の経緯について解説し、キャリア教育が重視されるに至った背景を検討した。さらに、キャリア教育の持つ課題や危険性をしっかりと認識しながら、キャリア教育が、普通教育と職業教育の統合を実現する可能性を有していることについて述べた。
25. アルバータ州の高校職業教育政策～理論と実践の統合をめざした高校教育の在り方について～(講演)	単	平成25年12月	市立札幌大通高等学校「キャリア教育」研修(会場：市立札幌大通高等学校) (招待講演)	在籍生徒の家庭状況や経済状況によって、入学した時点で、既に学習に対する意欲を失い、将来に対する希望も持てないという状況の中で何ができるのかを、カナダ・アルバータ州のオルタナティブ・スクールの事例を紹介しながら、検討した。講演終了後に、パネルディスカッションとして、キャリア教育担当の教員と公開討論を行った。

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(口頭発表) 26. A Comparative Study: Career Oriented and Vocational Education in high schools (査読付き)	単	平成26年7月	International Conference 2014 in Guidance and Career Development, International Association for Educational and Vocational Guidance (Quebec City, Canada)	日本の高校教育におけるキャリア教育・職業教育の役割や位置づけを紹介し、その問題点を分析した。その上で、比較対象としてカナダ・アルバータ州の高校教育プログラムについて検討し、キャリア教育・職業教育によって、若者に多様な選択肢の機会を与え、相互に乗り換え可能な複線型システム実現の可能性が見られることを指摘した。
27. 高等学校における アプレントイスシッ プの可能性について- カナダ・アルバータ 州の事例	単	平成26年11月	日本キャリア教育学会 第36回研究大会(会場: 琉球大学千原キャン パス)	具体的な職能資格を取得するためのアプレントイスシップ(徒弟)プログラムの一部を高校カリキュラムの一部とした取り組みについて、その成立過程と内容的な特徴を紹介した。その上で、職業を通じた学習が理論的な学習の具体的な意味を認識する場となっている点、進学か就職といった二者択一の選択ではなく、相互乗り換え可能な複線型の可能性について検討した。
28. 中等教育における Early School Leavers 対策につい て -カナダ・アルバー タ州の事例を中心 に-	単	平成27年6月	日本比較教育学会第51 回大会(会場:宇都宮大 学峰キャンパス)	アルバータ州の高校における中退リスクを抱える生徒への対応について、特に、職業教育プログラムの面での取り組みについて紹介し、日本における高校中退の問題と比較検討した。
29. Symposium: The Possibilities of Career-related Education Over Difficulties (査読付き)	共	平成27年9月	国際キャリア教育学会 2015年大会 (会場:つくば国際会議 場)	カナダ・アルバータ州における職業教育を通じた中退リスクを抱える若者への対応と、日本の高校における就学支援および単位制高校での取り組みを紹介し、参加者からの意見を交えて、高校教育と地域との関わりについて議論した。 シンポジスト: Dr. Bonnie Watt (アルバータ大学)、蒲生崇之(市立札幌大通高校)、浦野圭太(札幌啓北商業高校)、代表: 岡部敦
30. カルガリー市にお ける Vulnerable Youth 対応の取り組 み	単	平成28年6月	カナダ教育学会第47回 研究会 (会場:筑波大学東京キ ャンパス文京校舎)	科研費研究(基盤研究B)「グローバル化時代における包摂的な教育制度・行政システムの構築に関する国際比較」(研究代表者:横井敏郎)の一環として行った調査の中間報告として行った。特に、2013年にアルバータ州教育省が立ち上げた High School Redesign 政策に基づくカルガリー市の取り組みを中心に報告した。

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(口頭発表) 31. 特別企画シンポジウム「社会的包摂を目指すキャリア教育の可能性」	共	平成28年10月	日本キャリア教育学会第38回研究大会・北海道キャリア教育・職業教育フォーラム2017 (会場：札幌大谷大学)	札幌市内における子どもの居場所づくりボランティア、オールタナティブな高校教育を展開する公立高校、地元企業の人材確保を支援する就職支援業者による北海道の若者の学校から仕事への以降にかかわる課題を提起し、比較事例として韓国およびカナダの取り組みを紹介したのち、北海道におけるキャリア教育のあり方について議論した。(シンポジスト：蒲生崇之(市立札幌大通高校)、小林真弓(ねっこぼっこの家)、河本健一(HAJ 北海道アルバイト情報社)、キム・ヒョンチョル(韓国・青少年政策研究院)、岡部敦、コメンテーター：Bonnie Watt (University of Alberta)、Nancy Arthur (University of Calgary)、コーディネーター：杉山晋平(奈良佐保短期大学))
32. A Study on the Career-related Education for the Vulnerable Youth	単	平成28年11月	国際キャリア教育学会(International Association for Vocational and Educational Guidance: IAEVG) スペイン大会 (会場：国立教育大学、スペイン・マドリード)	カルガリー市内における困難を抱える若者を支援するための行政機関とその取り組み、ボランティア組織およびNPO組織の学校教育への積極的な参加の仕組みを図式化し、その有効性についてポスターにて発表した。
33. The Possibilities of Career Education for Vulnerable Youth	共	平成29年5月	アルバータ州キャリア発達学会(Alberta Career Development Conference 2017) (会場：Fantasyland Hotel, Edmonton)	高校中退リスクを抱える若者に対するカルガリー市の取り組みを紹介し、キャリアカウンセラーとしてどのような支援ができるかについて議論する機会とした。特に、カルガリー市教育委員会における多様な学びの機会の選択とカリキュラムの柔軟性について取り上げ、教室内での理論的な学習と職場での実践的・応用的な学習の統合の有用性について述べた。(発表者：Nancy Arthur (University of Calgary), 岡部敦)
34. High School Education for Vulnerable Youth: Perspectives from Japan and Canada (招待講演)	単	平成29年7月	Graduate Course EDPS631 of Werklund School of Education, University of Calgary, Foundations of Career Development in the spring semester, 2016	高校中退などの困難を抱える若者に対する高校教育の中での取り組みについて、日本とアルバータの事例を紹介しながら、共通する課題について検討した。特に、普通教育と職業教育の統合という概念と困難を抱える若者への対応との関わりについて説明した。
35. Flexibility of High School Education and Students' Engagement —Policy of High School Redesign in Alberta, Canada —	単	平成30年7月	日本キャリア教育学会第39回研究大会(会場：上越教育大学)	高校中退問題への教育行政の取り組みの事例として、カナダ・アルバータ州教育省が2012年から導入した「高校再構築(High School Redesign)」政策の概要について紹介し、全ての生徒が高校教育の意味について認識できるようなカリキュラムおよび単位認定の仕組みについて検討した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 36. Student Engagement and High School Flexibility: Preventing High School Dropouts	共	平成30年10月	国際キャリア教育学会 2018 年 大会 (International Association for Vocational and Educational Guidance: IAEVG)スウェーデン大会 (会場: Gothenburg)	カナダ・アルバータ州における高校中退の現状とその傾向について分析し、中退問題を発生させる要因について検討した上で、それを防止するための取り組みについて紹介した。特に、学校外の学習機会を拡大すること、学習方法の柔軟性、単位取得の柔軟性などの有効性について述べた。(発表者: Nancy Arthur (University of Calgary, 岡部敦))
37 社会包摂を目指すキャリア教育の可能性 ～カナダ・アルバータ州における高校再構築政策を中心に～	単	平成30年12月	日本キャリア教育学会 第40回 研究大会 (会場: 早稲田大学)	高校中退問題に焦点を当て、若者の社会的経済的自立を支援するための高校教育のあり方について検討することを目的とし、カナダ・アルバータ州の高校再構築 (High School Redesign)政策を取り上げ、キャリア教育の役割について検討した。
38 Preventing At-Risk Youth Becoming NEET: Effective High-School Work-Integrated-Learning Policies and Programs in Canada	共	2019年9月	国際キャリア教育学会 (IAEVG 2019 Conference) (会場: Bratislava, Slovakia) (ブラティスラバ経済大学) (学校教育における職業教育及びオフキャンパス教育が、ニートや高校中退の可能性を持つ若者にとってどのような効果を持つのか、また学校において実際にどのような役割を果たしているのかについて、カナダのアルバータ州とオンタリオ州の比較を行い、有効な改革原理について取り上げ議論した。 共著者: Lorraine Godden, Associate Professor at Carlton University
39. 高等学校段階における職業教育・キャリア教育の社会包摂の可能性に関する研究ーカナダ・アルバータ州の取り組みー	単	2019年11月	日本キャリア教育学会大41回大会 (会場: 長崎大学)	キャリア教育関係の二つの国際団体 (IAEVG, ICCDPP)の最近の研究テーマを紹介し、キャリア教育における社会正義が国際的な課題になっていることを紹介し、それに基づいて、学校教育ではどのような取り組みがなされているのかを、カナダ・アルバータ州の事例を用いて紹介した。
40. High School Education for Vulnerable Youth: Perspectives from Japan and Canada	単	2020年2月	Calgary Youth Attendance Centre, Calgary, Alberta (招待講演)	少年矯正教育について、日本の取り組みを紹介し、これまでの研究で得られたカナダの取り組みに関するデータと比較し、抱えている課題の共通性と、取り組みの違いについて解説した。なお、Calgary Youth Attendance Centre は、集団的保護観察プログラムであり、少年院を出院した若者に対して高校教育プログラムを提供する場所である。管轄はアルバータ州法務省。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (通訳) 1. メアリー・ゴードン 講演会	単	平成13年9月	カナダ子育て研究会 (子ども家庭リソースセンター札幌支部) (札幌市民会館)	<日本国際交流基金招聘事業> 「カナダの子育て家庭支援と心を育てる共感教育の取り組み」 講師: メアリー・ゴードン (Roots of Empathy 創始者) 主催: カナダ子育て研究会 後援: 日本国際交流基金 会場: 札幌市民会館 内容: カナダ・オンタリオ州トロントを中心に、子育て支援のアウトリーチ活動の中心として活躍しているメアリー・ゴードンの講演会の通訳として参加する。講演会の全講演と懇親会での質疑応答の通訳を務めた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(競争的研究資金の獲得状況)				
1. 平成24年度科学研究費助成費用第5回研究活動スタート支援	単	平成24年9月～平成26年3月	(課題番号24830069)	研究テーマ「高等学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方に関する比較研究」(代表:岡部敦) (直接経費190万円、間接経費57万円)
2. 平成26年度科学研究費助成費用基盤研究B	共	平成26年4月～平成30年3月		研究テーマ「グローバル化時代における包摂的な教育制度・行政システムの構築に関する国際比較研究」(代表:横井敏郎)、(直接経費1,986万円) 連携研究者として参加
3. 平成27年度科学研究費助成費用基盤研究C	単	平成27年4月～平成30年3月	(課題番号15K04312)	研究テーマ「後期中等教育における複線制の可能性に関する比較研究」(代表:岡部敦) (直接経費300万円、間接経費90万円)
4. Werlund School of Education, University of Calgary- Inbound Grant awarded to Dr. N. Arthur to provide financial support for research activities with Dr. Okabe	共	平成29年3月～平成29年7月		研究テーマ: Comparative Study on the possibility of Multiple Pathways in High School Education: Social Justice and Career Development (直接経費 2,500カナダドル)
5. 平成30年度科学研究費助成費用基盤研究B	共	平成30年4月～		研究テーマ:「拡散・拡張する公教育と教育機会保障に関する国際比較研究」(代表:横井敏郎) (直接経費1983.6万円) 研究分担者として参加
6. 令和2年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C	共	2020年4月～		研究テーマ:「基礎自治体の子ども関連施設の複合化をめぐる効果と持続可能性に関する国際比較研究」(代表:安宅仁人) (直接経費320万円) 研究分担者として参加
7. 令和2年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤研究A	共	2020年4月～		研究テーマ:「バルネラブルな生徒・中途退学者等に対する学校から社会への移行支援に関する国際比較」(代表:藤田晃之) (直接経費890万円) 研究分担者として参加